



2004年7月4日須崎湾産のミナミベニツケガニ。

1983年ごろまで、このカニは日本では奄美以南にしか分布しないとされてきました。その後、三重県と和歌山県での確認例が2000年に報告されたのみです。ホンコンイシガニと同様に、浦戸湾では4年ほど前から刺し網に掛かるようになって

ようです。ハワイ，南太平洋，インド洋に広く分布します。

多数の標本が確保できましたが、いずれもどこか傷んでいました。1ページのカニは右のハサミの可動指と、左のハサミの不動指の先端が折れています。仲間どうしで争ったのか、他の種と争ったのかは分かりません。上の写真は2004年7月に須崎湾湾奥部で採れたミナミベニツケガニです。須崎湾でも複数個体が採集されており、抱卵個体が含まれていました。

右のカニは県下の岩礁地帯で普通に見られるベニツケガニです。名前のとおり、体に赤色の部分があり、額の歯が赤いのは特に目立ちます。甲幅8cmになります。



2004年6月9日室戸市行当岬産のベニツケガニ。

2005年2月9日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。